

週日（無原罪の聖マリアの祭日）の説教

金 大烈 神父 2010年12月8日（水）

《絶対的な神様への信頼》

主の平和

皆様がどうお答えになるか分かりませんが、クイズの時間を持ちます。

ただ一つの問題です。あなたの後ろには絶壁があります。そして皆様の前には飢えた虎が一匹、あなたを狙っています。どうしますか。想像なさって下さい。これは本当に切迫な状態で、あっという間に襲われるか、落ちるか、どちらか一つになると思います。こんな時どうします。誰かに聞いてみましょうか。（笑）

これはある大学の試験問題として出されたものです。その時さまざまな答えが出たそうです。「もう一生懸命に逃げます」とか、「しょうがないのではないですか、運に任せます」とか、「その時は神様に願います」とか、色々な答えが出たそうですが、相応しい回答で高い得点をもらえた人は、唯一人しかいなかったそうです。満点をもらったその人はどんな回答だったと思いますか？「目覚めます！夢から目覚めます！」というものだったそうです。問題の中には限定された夢という言葉はなかったのですが、その学生は「夢から目覚めます。」という答えを出したわけです。

私達はどうか。今まで色々なことでがっかりして、絶望したり挫折したりした体験が結構あったと思いますが、その時皆様はどうしましたか。どのように目覚めましたか？ある意味で、その目覚めるモデルはマリア様ではないかと私は思います。男の人も知らない田舎のある女の子が、ある日突然、誰も考えられない、負えないようなお告げをいただいたのです。その時、どのくらい戸惑ったことでしょうか。「どうすればいいかと！」多分どうすればいいかと問うことさえ出来なかったと思います。しかしマリア様は最後に『わたしはし主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように。』（ルカ 1:38）と答えられました。このような祈りが、死ぬ時まで私達の口から自然に出たら、それは信仰の恵だと思います。

皆様は挫折する資格がありません。ある意味で信仰者は絶望する資格を持っていません。なぜなら、私達の信仰は、キリストに、いつも神様に、希望を置かなければならない生き方だからです。結局マリア様がおっしゃったように、「わたしは、あなたのはしためです。おっしゃったとおりになりますように」という心からの祈りが、私達の口からも出るように願いたいものです。

皆様、私も個人的に深い川を渡り、峠を乗り越えなければならない時がありました。20代の終わりに、あるとんでもない嘘によって、自分の道を辞めなければならないところまで行ったことがあります。噂は自分が聞いても笑うことしかできないような、とんでもないものでした。しかし、人々は本当のことを聞こうとしないで、気が移りやすく、噂をすぐ信じてしまうでしょう。ですからそれは結構広まってしまいました。そんな噂が広がって先ず私が持った感情は痛みです。そして悲しみです。

私が今まで皆に見せて来たものはいったい何だったのだろうか、複雑な思いでした。色々な人が訊ねます。「どうしたのですか。何故ですか。どういうことですか」と。その時私が見せた態度は沈黙を守ることでした。十字架につけられたイエス様が、どうなさったかと考えました。イエス様は、少しも言い訳や、自分を弁明することをなさらなかったのですよね？ 私がイエス様に従う道を歩んでいる者として、自分もその姿に倣わなければと思い、何一つ自分を生かすためには動かず、沈黙を守りました。

結果は何ヶ月か経ってそれが嘘であることが分かり、そのような嘘をついた人が偶然にも一人ではなく、何人かがいつかその噂話を出したことも全部分かりました。ですから今こうして、皆様の前に立って話をしています。(笑)

この経験は私にとって本当に大きな勉強になりました。私が腹を立てながら、「そうではない、そうではないのですから」と、噂を流した人は誰かと探し出そうとして色々動いたら、いい結果は出なかったと思います。こういう苦い経験によって私が模範としているのはイエス様であって他にはないことを何よりも深く黙想ができたことは幸いでした。自分の考えではなく、自分の思いではなく、イエス様が見せてくれたその道に従うために、頑張らなくてはならないと一番大きな宝物をいただきました。そういう体験が、事実、今まで何か困ったことにぶつかった時、助けになっています。そして、私にとっては一番素晴らしい、相応しい方法ではないかと思います。これは色々なことを乗り越えた話です。

今日皆様に一番申し上げたいことは、“絶対的な神様への信頼”についてです。マリア様が私達に見せて下さったことは“神様へ対しての絶対的な信頼”でした。結局“信頼とは希望”でしょう。

皆様にお願いしたいことは、皆様の中にも色々難しい立場の人が結構いらっしゃると思います。しかし、がっかりしないでください。絶望しないでください。それはある意味で神様への一番大きな罪かも知れません。「あなたが何とかしてくれることを信頼します。私はただあなたの御旨に従います。」と祈れば皆様の願いは叶えられます。しかし、それには条件があります。「あなたの御旨に従います。」無条件に委ねて「あなたが何とかして下さるのでしょう。」と待つだけに終わってしまうと、神様が救おうとしてもこれは出来ません。“あなたにすべてを任せます。”“私もあなたの御旨に従います。” 先ずこのような心、この二つの条件がちゃんと供えられた時に皆様はいつも救われると思います。

さあ、マリア様が、私達のお母様が、私達に見せている模範がありますが、何よりも偉大な模範は『わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように。』という、そのへりくだった心の持ち方だと思います。

第一朗読(創世記3・9-15, 20)を一つの聖書の勉強として、説教と関係なく読んでみます。面白いですよね。女の名は「エバ」、このエバの意味は命でしたね。そして「女の人との間に敵意を置く」と言われたのは蛇でした。初めてアダムが神様に咎められて「あなたは、なぜそういうことをしてい

るのか」と言われた時、アダムは「あなたが下さった相手、あの女に誘われてこのようにしました。」と、神様の質問に考える時間も持たず、すぐに言い訳をしています。そしてその女の人、エバに神様が問うと、こちらも全然考えずに「蛇がだましたのです」と答えています。

これはまさに私達の弱さです。私達の持っている本能とか感覚は、このような生き方が全てです。このような表現をしない人が、中にはいるかも知れませんが、それは長い間の努力の結果です。神様はなぜ言い訳するのかと叱りませんでしたね。ということは、私達が元からそのように作られていることを、神様もよく知っていらっしゃるからです。そしてなぜ蛇が選ばれたのでしょうか。ネズミでもよかったのではないですか。蛇は害をもたらすこと、そして女の方は大体が嫌っている。そういうことをよく考えてこの物語が出来たと思います。簡単な説話かも知れませんが、結局、遥か昔も、今も、そしてこれからも人間の弱さは変わらないことを今日の第一朗読をとおして考えていただければいいのではないかと思ってみました。

おめでとうございます。